

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



平成24年8月27日（月）～9月2日（日）〔平成24年第35週〕の感染症発生状況

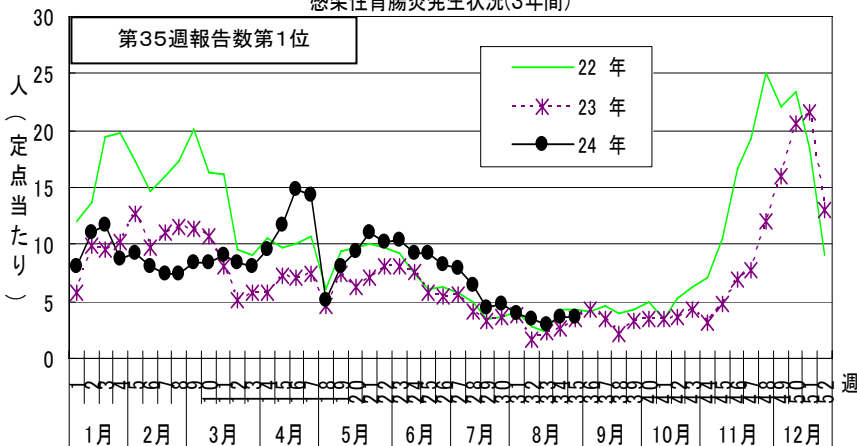
第35週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)手足口病でした。

感染性胃腸炎は定点当たり3.59人と前週（3.63）より患者報告数はやや減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

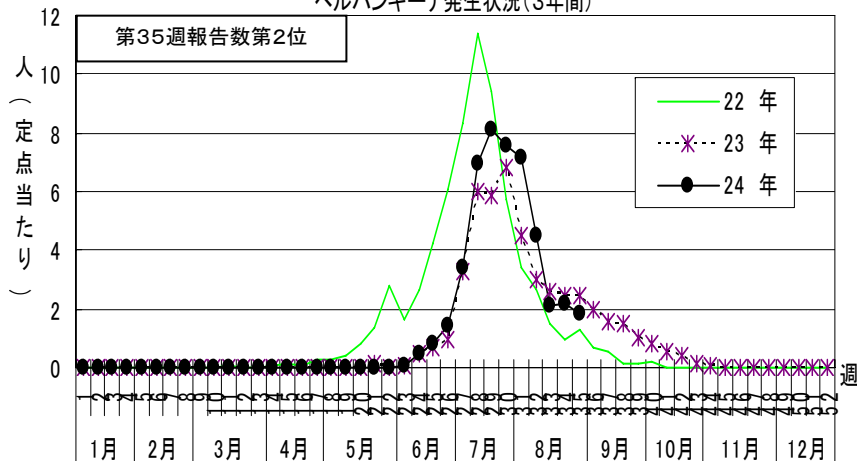
手足口病は定点当たり1.66人と前週（0.66）より患者報告数は増加しましたが、例年よりやや低いレベルで推移しています。

腸管出血性大腸菌感染症の届出が2件（血清型：O157 2件、推定感染地域：日本 2件）ありました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



まだまだ注意が必要です！～腸管出血性大腸菌感染症～

例年、8月を中心に腸管出血性大腸菌感染症が発生しますが、9月もまだまだ油断できない時期です。腸管出血性大腸菌感染症に有効な予防対策の覚え方の一例を御紹介しますので参考にしてください。



O157 (オ-イチ) ナ
7510 (ナ) イセ
75℃ 1分 で 0個

夏期は、気温と湿度が高いため、食中毒の原因となる細菌（腸管出血性大腸菌 O157 など）が増殖しやすい時期です。

O157 などの細菌を死滅させるための加熱は、75℃1分が一つの目安です。この温度と時間が重要なので忘れないようににしましょう。覚え方を左に掲載しましたので参考にしてください。O157 を逆さに読んで・・・「75℃1分の加熱で細菌0個」とすれば覚えやすいですね。



手洗いが基本です！

ただし、食品の表面だけでなく中心部までこの条件で加熱する必要がありますので注意してください。